令和5年度 横川東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と、自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心をもった児童の育成を目指す。

- ・素直で思いやりのある子（なかよく）
- ・よく学び工夫する子（まなび）
- ・健康でたくましい子（あそび）
- ・進んでやりぬく子（がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「信頼、活気、喜びのある学校づくり」

子どものよりよい成長のためには、教職員・保護者・地域住民との関わりが重要であり、3つの視点からテーマを設定した。学校と家庭・地域社会との連携を図る教育活動を推進し信頼される学校、質の高い分かる授業を展開し、計画的な教育課程のもと、児童一人一人が生き生きと活動している学校、楽しい心の触れ合いにあふれ、児童が夢をもち喜んで通いたくなる教育が展開されている学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人を大切に、全人教育を目指す学校 — 一人一人の児童が、かけがえのない存在である —
- (2) 和と連帯を基調として教育を進め、家庭・地域に信頼される学校
— 子どもは地域の子もたちである。地域や保護者との信頼関係を —
- (3) 児童と共に歩み、確かな学力をしっかりと身に付ける学校 — 学力は毎日の積み重ね、日々の授業を大切に —
- (4) 児童の思いを豊かにする学校 — 子どもが通いたくなる学級・学校に —
- (5) 創意ある「社会に開かれた教育課程」の編成と特色ある学校 — 伝統を大切にしながらも、工夫・改善を —
- (6) 教職員自らが学び続ける学校 — 子どものためにとことを考え、私たちが学ぶ —
- (7) ○地域に目を向け、地域とともに歩む学校 — 地域に目を向けよう 保護者や地域の人と会話を —

[横川地域学校園教育ビジョン]

豊かな心の育成を目指す、横川地域学校園の小中一貫教育

～自分・人・地域を大切に、主体的に行動できる子どもの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、小中学校指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、市立小中学校管理規則、宇都宮市学校教育スタンダード、うつのみやいきいき学校プラン、本校教育目標の達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省などを十分踏まえて編成する。
- (2) 教育活動全般を通して、特色ある教育を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を培うことを目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 家庭や地域と連携を図り、それらの教育力を活用し広がりを持った教育活動が実践できるように編成する。また、「小中一貫教育地域学校園」の効果的な実施を目指し、次の三点に重点を置いたカリキュラムを検討し具現化していく。
 - ①義務教育9年間の系統性の強化
 - ②教科等間に関連させた教育内容の工夫
 - ③人・社会とのつながりを生かした学習活動の推進
- (4) 学習指導上の問題・児童指導上の課題の解決を目指した研究、また、特色ある学校づくりを目指した教育活動の推進を、日々の教育活動の中に組み入れ、全校体制で取り組むように努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学校運営】○学校と地域社会が連携した教育活動を展開するとともに、子どもの生活に関する様々な情報を共有し、組織的・継続的に課題解決に取り組むことを通じて、家庭や地域から「信頼される学校づくり」を推進する。
- 【学習指導】○社会の変化に対応し、自ら未来を切り拓いていく子どもの育成
- 【児童生徒指導】思いやりの心を育むとともに、きまりやマナーを身に付け、励まし合いながら生活する児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○自らの健康面や体力面のよさや課題をよく知り、自分に応じたためあての実現のために、進んで活動に取り組むことができる児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて以下の点に留意して授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決においては, 見通しをもって取り組ませ, 児童が自分の伸びや変化を自覚できるように振り返りをさせる。 ・個々の考えをつなぐ発表の仕方を指導する。(話型や発表方法の提示等) ・児童が興味関心を持って取り組める課題を設定し, 各教科における見方・考え方を働かせるように, 教材やICT等を効果的に活用したり授業の展開を工夫したりする。 <p>②「横東小スタンダード」「話の聞き方」「話し方」を基本とし, 学習時のきまりの徹底を図るとともに, 学年に応じた話の聞き方, 話し方を系統立てて指導する。また, 考えを比較したり深めたりできるよう, 教師のコーディネートを工夫する。</p> <p>③校内授業研究会や一人一授業では, 以下の点に留意して授業を行い, 授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や授業における導入の工夫 ・学習の流れと板書計画の一体化 ・ペア学習やグループ学習の効果的な設定 ・「話し合い活動」の目的や方法の明確化 ・振り返りの視点の精選と明確化 	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 92.7% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 90.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け, 研修会を通して教職員の共通理解を図りながら, 課題設定やICTを活用した授業展開の工夫等に取り組んできた。 ・校内授業研究会や一人一授業において, 指導法や有効な手立てについての研究協議を通してよりよい授業について学び, 日々の授業実践に生かすことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <p>①個々の考えをつなぐ発表の仕方を指導する。(話型や発表方法の提示等) 各学年に合わせて提示を工夫する。</p> <p>②「横東小スタンダード」「話の聞き方」「話し方」を基本とし, 学習時のきまりの徹底を図るとともに, 学年に応じた話の聞き方, 話し方を系統立てて指導する。また, 考えを比較したり深めたりできるよう, 教師のコーディネートを工夫する。</p> <p>③日々の授業から以下の点に留意して授業を行い, 授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や授業における導入の工夫 ・学習の流れと板書計画の一体化 ・ペア学習やグループ学習の効果的な設定 ・「話し合い活動」の目的や方法の明確化 ・振り返りの視点の精選と明確化

1-(2)
豊かな心を
育む教育の
推進

A2 児童は、思いやりの心をもっている。
【数値指標】
全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

①体験活動や他の教育活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、認め励ますような言葉かけやワークシート等へのコメントを記すことで、自己肯定感や人を思いやる心などの涵養を図る。
②朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。
③クラブ活動や縦割り班での清掃、遊びなど異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。
④人権教育年間指導計画に基づき、教科や日常生活全般において、人権教育を意図的・計画的に実施するとともに、人権週間や教育相談の充実を図る。

①道徳科の授業や行事等の教育活動、キャリアパスポートの活用を通して、夢や目標をもつことの大切さを理解させるとともに、折れない心ややり抜く心のたくましさを涵養する。
②漢字・計算オリンピックや各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。
③児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛するとともに、日常の学校生活の中で担任や教科担任も児童の頑張りを認め励ます指導に努める。

【達成状況】
児童の肯定的回答 91.3%
教職員の肯定的回答 100.0%
保護者の肯定的回答 91.8%
地域住民の肯定的回答 100.0%
・体験活動や道徳科の授業を行ったり、縦割り班活動で異学年交流を行ったりすることを通して、自己肯定感や人を思いやる心の涵養が図れた。
・児童が互いに認め合う場を設定することで望ましい人間関係を築くことができた。
【次年度の方針】
①体験活動や他の教育活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、認め励ますような言葉かけやワークシート等へのコメントを記すことで、自己肯定感や人を思いやる心などの涵養を図る。
②朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。
③クラブ活動や縦割り班での清掃、遊びなど異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。
④人権教育年間指導計画に基づき、教科や日常生活全般において、人権教育を意図的・計画的に実施するとともに、人権週間や教育相談の充実を図る。

【達成状況】
児童の肯定的回答 90.0%
教職員の肯定的回答 100.0%
保護者の肯定的回答 83.6%
・各種検定やキャリアパスポートを通して、児童が目標を持って取り組みを実施できた。
・児童指導委員会を開催することにより、児童の実態把握やきまりの確認を適宜行うことができた。
【次年度の方針】
①道徳科の授業や行事等の教育活動、キャリアパスポートの活用を通して、夢や目標をもつことの大切さを理解させるとともに、折れない心ややり抜く心のたくましさを涵養する。
②漢字・計算オリンピックや各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。
③児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛するとともに、日常の学校生活の中で担任や教科担任も児童の頑張りを認め励ます指導に努める。

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①感染症等の予防について正しく理解できるよう保健指導を行ったり家庭にも協力を求めたりしながら、児童が引き続き、自他の健康や安全に気を付けながら新しい生活様式に基づき、自己管理できるよう声をかけていく。</p> <p>②関連教科や学校給食の指導を通して、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③火災または地震・竜巻等の自然災害の発生に備えた避難訓練（授業時間とそれ以外の時間）、交通安全教室・防犯教室・作成した「横東小安全マップ」を活用し、安全への意識付けを図る。</p> <p>④体育の授業に持久走や縄跳び、サーキットトレーニング等を継続的に取り入れたり、元気っ子チャレンジへの参加を取り入れたりして運動量を確保し児童の体力向上を図るとともに、ICTを有効に活用して授業の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 93.0% 教職員の肯定的回答 97.5% 保護者の肯定的回答 93.7% 地域住民の肯定的回答 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対する正しい知識をもち、自他の健康や安全に気を付けながら、自己管理できるようになっている。 ・実地的な訓練ができるようになり、児童の防災意識が高まった。 ・学校としての取り組みを地域住民に認識する機会が少ない。 <p>【次年度の方針】</p> <p>①感染症等の予防について正しく理解できるよう保健指導を行ったり家庭にも協力を求めたりしながら、児童が引き続き、自他の健康や安全に気を付けながら、自己管理できるよう声をかけていく。</p> <p>②関連教科や学校給食の指導を通して、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③火災または地震・竜巻等の自然災害の発生に備えた避難訓練（授業時間とそれ以外の時間）、交通安全教室・防犯教室・作成した「横東小安全マップ」を活用し、安全への意識付けを図る。</p> <p>④体育の授業に持久走や縄跳び、サーキットトレーニング等を継続的に取り入れたり、元気っ子チャレンジへの参加を取り入れたりして運動量を確保し児童の体力向上を図るとともに、ICTを有効に活用して授業の充実に努める。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りとの協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①授業の話合いや発表の場、朝や帰りの会、昼休みの共遊等において、児童が自分のよさを感じたり、友達を認め合ったりする場を設定し、進んでよりよい生活をしようとする力を養う。</p> <p>②縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 89.7% 教職員の肯定的回答 97.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で自分のよさを感じたり友達と認め合ったり場を設け、思いやりの心を育むことで協力して生活をよりよくしようとする力を育むことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <p>①授業の話合いや発表の場、朝や帰りの会、昼休みの共遊等において、児童が自分の良さを感じたり、友達を認め合ったりする場を設定し、進んでよりよい生活をしようとする力を養う。道徳</p> <p>②縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動を通して、助け合う心や思いやりの心を育てる。</p>

<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①外国語活動や外国語の授業を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>②英語専科教員を中心に外国語活動・外国語に関する校内研修や授業を参観する機会を充実させたり、ALTとの連携を充実したりすることにより、教員の指導力の向上を図る。</p> <p>③カレンダー・天気などの英語の掲示物カードを各学級に配付したり、特別教室の英語の表記を活用したりして、日常的に英語に親しみ、英語でコミュニケーションを図る態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 84.1% 教職員の肯定的回答 95.0% ・英語専科教員を中心とした外国語活動や外国語の授業を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 B ①外国語活動や外国語の授業を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・児童と生徒同士児童同士で英語を使ってコミュニケーションの機会を作る。 ②英語専科教員を中心に外国語活動・外国語に関する校内研修や授業参観する機会を充実させ、学級担任の指導力の向上を図る。</p>
<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①生活科・社会科・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業や、百人一首に親しむことのできる学習を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。</p> <p>②「宇都宮学」の年間指導計画を基に、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるよう努める。</p> <p>③市の施設巡りや校外学習などの充実を図り、宇都宮市の良さについて、実際に見たり体験したりすることを通して、宇都宮の良さに気付くことができるよう指導する。</p> <p>④宇都宮についての学習の状況や成果について、学年だよりに宇都宮学コーナーを設けたりホームページに掲載したりすることにより、周知に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 87.9% 教職員の肯定的回答 87.5% 保護者の肯定的回答 75.4% ・生活科・社会科・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付くことができた。 ・校外学習などの行事によって、宇都宮市の良さを体験することができた。</p> <p>【次年度の方針】 B ①生活科・社会科・道徳・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の授業や、百人一首に親しむことのできる学習を通して、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②「宇都宮学」の年間指導計画を基に、宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるよう努める。 ③市の施設巡りや校外学習などの充実を図り、宇都宮市の良さについて、実際に見たり体験したりすることを通して、宇都宮の良さに気付くことができるよう指導する。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、プログラミングの授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に ICT 機器を活用する。</p> <p>②学習に役立つ図書及び図書以外の資料を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③「まなびポケット」の運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。</p> <p>④GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT機器を学習に活用する機会を増やしていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 88.9% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 89.9%</p> <p>・授業において一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT機器を学習に活用することができた。</p> <p>・ICTの効果的な活用について研究をしてきたことで、各教科でスクールタクトやジャムボードなどのソフト等を使って個に応じた指導の充実を図ることができた。</p> <p>・市立図書館との連携を図り、学習に必要な書籍をそろえて活用することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ① 学習に役立つ図書及び図書以外の資料を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>② ICTの効果的な活用を積極的に考える。教師自身が使うべき時を見極める。(図書資料・ICTの使い分け)</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①普段の生活の中でも節水や節電、リサイクル活動等を意識させたりし、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>②総合的な学習の時間や社会科等の授業、宇都宮市のSDGsへの取組の紹介等を通して「持続可能な社会」の内容について知り、環境問題への関心を高めさせる。</p> <p>③人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>④東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.3% 教職員の肯定的回答 82.5%</p> <p>・節水やアルミ缶回収への協力など、普段の生活の中で意識的に取り組んでいるが、環境問題への関心がまだ低い。</p> <p>【次年度の方針】 ①普段の生活の中でも節水や節電、リサイクル活動等を意識させたりし、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>②総合的な学習の時間や社会科等の授業、宇都宮市のSDGsへの取組の紹介等を通して「持続可能な社会」の内容について知り、環境問題への関心を高めさせる。</p> <p>③ 環境委員会を通して、SDGsについて掲示や発表をして広めていく。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に校内支援委員会やケース会議を適宜開催して支援の方針を確認したり、職員会議後の情報交換を実施して全教職員が特別な支援を必要とする児童に関する共通理解を図ったりすることで、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>②特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、特別支援教育に関する研修を深め、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努めるとともに、適切な支援を行えるようかがやきルームやスクールカウンセラーの効果的活用を推進したり、専門機関との連携を図ったりしていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 95.0% ・特別支援コーディネーターを中心に、一人一人のニーズに合わせて適切に支援を行うことができた。 ・普通学級においても、個別の支援計画を生かして個別に適切な支援を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に校内支援委員会やケース会議を適宜開催して支援の方針を確認したり、職員会議後の情報交換を実施して全教職員が特別な支援を必要とする児童に関する共通理解を図ったりすることで、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、特別支援教育に関する研修を深め、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努めるとともに、適切な支援を行えるようかがやきルームやスクールカウンセラーの効果的活用を推進したり、専門機関との連携を図ったりしていく。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答90%以上 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上</p>	<p>①朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。</p> <p>②学校生活アンケートや Q-U を活用したり、教育相談を適宜行ったりしていくことで児童理解に努めるとともに、定期的に児童指導委員会を開催することで組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めていく。</p> <p>③「いじめゼロ集会」等の計画や実施を児童が主体的に取り組めるよう支援し、活動を通して自分たちでいじめのない学校をつくろうという意識をもたせる。</p> <p>④道徳の授業や学級活動の話合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 97.6% 教職員の肯定的回答 97.5% 保護者の肯定的回答 88.7% 地域住民の肯定的回答 88.9% ・学校生活アンケートや教育相談を活用し、児童理解に努め、いじめの早期発見へとつなげ、指導を行った。 ・児童指導委員会を開催し、学年、学校で情報を共有することで組織的に問題に対応することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①朝や帰りの会、昼休みの共遊、授業等において、児童が互いを認め合う場を設定し、望ましい人間関係を築く力を養う。 ②学校生活アンケートや Q-U を活用したり、教育相談を適宜行ったりしていくことで児童理解に努めるとともに、定期的に児童指導委員会を開催することで組織的にいじめの早期発見・早期対応に努めていく。 ③「いじめゼロ集会」等の計画や実施を児童が主体的に取り組めるよう支援し、活動を通して自分たちでいじめのない学校をつくろうという意識をもたせる。 ④道徳の授業や学級活動の話合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導する。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。また、担任や教科担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>②教育相談、アンケート、Q-U検査等の結果を活用し不適應傾向のある児童の早期発見と対応に努める。また、定期的に児童指導委員会等を開き、関係職員が不登校の兆候や傾向の児童に関する情報共有を図り、児童が安心して相談できる環境を整えたり、よりよい支援の方法を工夫したりするなど学校全体で組織的に対応する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 93.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートや教育相談を活用し、児童理解に努めていじめの早期発見へとつなげ、指導を行った。 ・学年、学校で情報共有をすることで組織的に問題に対応することができた。 <p>【次年度の方針】 ①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、横東っ子きらきら表彰（年3回）を通し、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。また、担任や教科担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>②教育相談、アンケート、Q-U検査等の結果を活用し不適應傾向のある児童の早期発見と対応に努める。また、定期的に児童指導委員会等を開き、関係職員が不登校の兆候や傾向の児童に関する情報共有を図り、児童が安心して相談できる環境を整えたり、よりよい支援の方法を工夫したりするなど学校全体で組織的に対応する。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への 適應支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るいきいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・①「分かった、できた」喜びを味わえる話し合い活動やまとめ・振り返り活動を大切にした授業を展開したり、潤いのある日課や学校行事を工夫したりする中で、居心地のよい学級や学校づくりに努めていく。</p> <p>②学校行事や児童集会、授業やクラブ活動等において、児童の主体的な学びにつながる活動の場を意図的に設定し、内容を充実させていく。</p> <p>③児童会の活性化により、委員会活動の充実や縦割り割班遊びの工夫を図り、児童の自主性を生かした取組に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 96.0% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 92.3% 地域住民の肯定的回答 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に掲げた ICT を活用した授業づくりや話し合いにおける児童同士のつなげ方や、まとめ・振り返りを大切にした授業展開を実践することにより、児童が達成感を味わうことにつながった。 ・委員会活動や縦割り班活動において、児童の主体的な活動を取り入れて行ったことにより、児童の自主性を高めることにつながった。
<p>3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化</p>			<p>【次年度の方針】 ①「分かった、できた」喜びを味わえる話し合い活動やまとめ・振り返り活動を大切にした授業を展開したり、潤いのある日課や学校行事を工夫したりする中で、居心地のよい学級や学校づくりに努めていく。</p> <p>②学校行事や児童集会、授業やクラブ活動等において、児童の主体的な学びにつながる活動の場を意図的に設定し、内容を充実させていく。</p> <p>③児童会の活性化により、委員会活動の充実や縦割り割班遊びの工夫を図り、児童の自主性を生かした取組に努める。</p>

4-(1)
教職員の資
質・能力の
向上

A14 教職員は、分かる授業
や児童にきめ細かな指導
を行い、学力向上を図っ
ている。

【数値指標】

全体アンケート「先生方の授
業は分かりやすく、一人一人
に丁寧に教えてくれる。」
⇒児童・教職員の肯定的回答
85%以上

- ①「分かる授業」や「できた喜びを味
わえる授業」をめざして学年会等の機
会を有効に活用し、教科指導の共通理
解や教材研究に努める。
- ②学校課題に即して教材研究や授業
研究に積極的に取り組み、授業力の向
上を図るとともに、一人一人の教員の
よさと専門性を生かして、教科担任制
を推進していく。
- ③学校だよりやホームページなどを
活用し、学力向上の取組や児童の成長
の様子を伝えるなど、情報発信にも努
める。
- ④学習指導法（少人数指導・習熟度や
T.T学習・かがやきルームの活用等）
の工夫改善を図り、一人一人に応じた
指導に努める。

【達成状況】

児童の肯定的回答	97.3%
教職員の肯定的回答	97.5%
保護者の肯定的回答	89.2%
- ・各種研究授業や学年会等において、学
年の課題を把握し、教科指導や教材のポ
イントを共有して学力の向上を図るこ
とができた。
 - ・一人一人の教員のよさと専門性を生
かし、学習指導法の工夫改善を図ること
ができた。
 - ・ホームページや学校だより、各種おた
よりを活用し、学校での活動の様子や児
童の様子などの情報発信をすることが
できた。

【次年度の方針】

- ①「分かる授業」や「できた喜びを味
わえる授業」をめざしてあらゆる機会を活
用し、教科指導の共通理解や教材研究に
努める。
- ②学校課題に即して教材研究や授業研
究に積極的に取り組み、授業力の向上を
図るとともに、一人一人の教員のよさと
専門性を生かした配置を行う。
- ③学校だよりやホームページなどを活
用し、学力向上の取組や児童の成長の様
子を伝えるなど、情報発信にも努める。
- ④学習指導法（少人数指導・習熟度や
T.T学習・かがやきルームの活用等）の
工夫改善を図り、一人一人に応じた指導
に努める。

B

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①教職員の協働性を高めることに視点を置き、教科指導や学校行事等において、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切にしよう。</p> <p>②学校内における多様な学校スタッフが、それぞれの専門性を生かして学習指導や児童指導、学校行事における支援、環境整備等に協力し、教育活動を充実させる。</p> <p>③教員と専門性を有するスタッフが報告・連絡・相談を密にして連携し、各教科年間計画や各種教育年間計画を基に役割分担を明確にして教育活動や環境整備に当たれるよう、円滑なコミュニケーションを図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導において教科担任や TT、交換授業などの積極的な出入り授業を取り入れたり、学校行事等において役割分担や協力をし合ったりしながら業務に当たることができた。 ・栄養教諭や養護教諭による授業への参画、司書教諭による読書活動の推進、学校業務職員による学校環境整備等、積極的な関わりをもつことができた。 ・職員同士が連絡を密に取り合っており計画的に教育活動を実践することができ、円滑なコミュニケーションを図ることができた。 <p>B 【次年度の方針】</p> <p>①教職員の協働性を高めることに視点を置き、教科指導や学校行事等において、教職員の得意分野や経験が生きる組織運営に努めるとともに、助け合える雰囲気を醸成する。</p> <p>②学校内における多様なスタッフが、それぞれの専門性を生かして学習指導や児童指導、学校行事等における支援、環境整備等に協力し、教育活動を充実させる。</p> <p>③教員と専門性を有するスタッフが報告・連絡・相談を密にして連携し、各教科年間計画や各種教育年間計画を基に役割分担を明確にして教育活動や環境整備に当たれるよう、円滑なコミュニケーションに努める。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めていくとともに、リフレッシュウイークを設定し意識して勤務するようにしていく。</p> <p>②教職員の負担軽減に向け、学校評価の結果を反映した学校の組織運営の改善や、新しい生活様式を反映した各種行事等の実施方法の改善、PTA や地域協議会との連携を図っていく。</p> <p>③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p> <p>④GIGA スクール構想に係る内容について校内研修を行い、全職員が共有することによって、効果的に活用できるようにする。</p> <p>⑤新しく導入されたスクールタクト等を効果的に活用し、ペーパーレス化を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 92.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や分掌ごとに計画的に分担・実施することができるよう、業務の効率的な実施を意識し、改善が図れた。 ・ペーパーレス化を図るために学習情報システムやスクールタクト、さくら連絡網を効果的に活用することで業務の効率化が図られた。 <p>A 【次年度の方針】</p> <p>①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努めていく。特に、教育課程のスリム化を図る。</p> <p>②教職員の負担軽減に向け、学校評価の結果を反映した学校の組織運営の改善を図る。また、アフターコロナの各種行事等の実施方法の見直し、PTA や地域協議会との連携を推進する。</p> <p>③ICT 機器を効果的に活用し、PTA に関わる業務や学校業務を効率的に進める。</p> <p>④GIGA スクール構想に係る内容について校内研修を行い、全職員が共有することによって、効果的に活用できるようにする。</p>

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①義務教育9年間を見通した協力体制を基に、乗り入れ授業や6年生の進学先中学校訪問、教科分科会や児童生徒指導強化連絡会等を、目的を明確にして効果的に実施する。</p> <p>②地域学校園で行っている小中交流あいさつ運動や6年生への乗り入れ授業、各学校の研究授業等の様子について、学校だよりやホームページ等に掲載し、保護者・地域への積極的な発信に努める。</p> <p>③地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 89.8% 教職員の肯定的回答 92.5% 保護者の肯定的回答 85.1% 地域住民の肯定的回答 94.1%</p> <p>・乗り入れ授業や中学校との情報交換により、中学校の様子や小学校で見に付けるべき学習内容を確認することができた。</p> <p>・地域学校園事務室部会や養護教諭のような一人配置職員の交流が活発に行われた。</p> <p>【次年度の方針】 ①義務教育9年間を見通した協力体制を基に、乗り入れ授業や6年生の進学先中学校訪問、教科分科会や児童生徒指導強化連絡会等を、目的を明確にして効果的に実施する。</p> <p>②地域学校園で行っている各種活動について、学校だよりやホームページ等に掲載し、保護者・地域への積極的な発信に努める。</p> <p>③地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p> <p>「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「魅力ある学校づくり地域協議会」の各部の取組を新しい生活様式に照らしてより具体的に展開するとともに、特に「防犯・交通安全」や「学校支援」等について広く情報を発信する。学校関係者評価を実施することで、地域の声を反映し、よりよい教育活動を展開する。</p> <p>②「横東の子を育む会」を定期的開催し地域・家庭との情報交換を行うとともに、そこで得た情報を基に安全指導や児童指導を充実させる。</p> <p>③地域や企業等と連携・協力した、学年に応じた特色のある効果的な教育活動のあり方を検討し、年間指導計画の見直しを図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 89.3% 地域住民の肯定的回答 100.0%</p> <p>・地域協議会、街角の先生などの方々に校内環境の整備や掲示物の作成など、学校の諸活動に積極的に関わっていただいたことで、潤いのある学習環境が整ったり、職員の業務改善につながったりした。</p> <p>・各種たよりを活用して、活動の様子を保護者や地域に知らせ、安全指導や児童指導に対して協力を得ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①「魅力ある学校づくり地域協議会」の各部の取組を具体的に展開するとともに、特に「防犯・交通安全」や「学校支援」等について広く情報を発信する。学校関係者評価を実施することで、地域の声を反映し、よりよい教育活動を展開する。</p> <p>②「横東の子を育む会」を定期的開催し地域・家庭との情報交換を行うとともに、そこで得た情報を基に安全指導や児童指導を充実させる。</p> <p>③学年に応じた特色のある効果的な教育活動のあり方を検討し、計画的に地域や企業等と連携・協力する。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアル（避難所の開設）を整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入、感染症感染予防対応等の不測の事態への備えを万全にする。 ③新型コロナウイルス感染症拡大防止や熱中症対策予防対策、インフルエンザやその他の感染症の蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導・管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 97.5% 保護者の肯定的回答 90.4% 地域住民の肯定的回答 95.0% ・年度当初の計画に従い、安全点検や避難訓練を年間で複数行い、危険箇所については迅速に対応することができた。 ・時期に応じた保健指導や安全指導を実施できた。</p> <p>【次年度の方針】 B ①毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルや避難者初期支援マニュアル（避難所の開設）を整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入、感染症感染予防対応等の不測の事態への備えを万全にする。 ③感染症拡大防止や熱中症対策予防対策、インフルエンザやその他の感染症の蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導・管理に努める。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、プログラミングの授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②学習に役立つ図書及び図書以外の資料を活用して、学習の効果を高められるよう各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実や市立図書館との連携等、学校図書館の環境整備に努める。 ③「まなびポケット」の運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。 ④GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、ICT機器を学習に活用する機会を増やしていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 97.5% ・ICT支援員の協力を得ながら「まなびポケット」の運用を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を行った。 ・一人一台のタブレット端末を積極的に使用し、AIドリルや学習アプリを学習に活用する機会を増やした。</p> <p>【次年度の方針】 B ①児童が情報通信ネットワークなどの情報手段に親しんだり、授業で操作をしたりすることを通して、適切に活用する能力を育成できるよう、積極的にICT機器を活用する。 ③まなびポケット等のアプリの運用に向けた校内研修を充実させ、状況に応じた学習指導ができるよう準備を進めていく。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が具体的な場を通して強化を図れるようにする。 ②引き続き、児童会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの大切さを広め、校内だけでなく登校時にも進んであいさつするよう意識を高める。 ③学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域との連携を図っていく。また、地域学校園全体での取組も合わせて推進していく。 ④児童が時と場に応じてあいさつができるよう、児童指導部からの提案や指示を基に全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 92.2% 教職員の肯定的回答 95.0% 保護者の肯定的回答 87.2% 地域住民の肯定的回答 90.5% ・月のはじめのあいさつ運動や児童会を中心としたあいさつ運動、地域学校園共催のあいさつ運動を実施することで、意識を高めることにつながった。</p> <p>【次年度の方針】 ①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が具体的な場を通して強化を図れるようにする。 ②引き続き、児童会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの合言葉（明るく・いつでも・先に・続けよう）を意識させる。 ③あいさつの大切さを感じさせ、校内だけでなく登下校時にも進んであいさつするよう声掛けをする。 ④学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域との連携を図っていく。また、地域学校園全体での取組も合わせて推進していく。 ⑤児童が時と場に応じてあいさつができるよう、児童指導部からの提案や指示を基に全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。</p>
<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○①「横東小スタンダード」を活用し、授業や生活のきまりを具体的に理解させることにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、引き続き、定期的に児童指導委員会を開催し、児童の実態から課題を共有するようにする。「横東小スタンダード」が学校生活に浸透するよう、指導のポイントなどの細かい部分を工夫改善し職員間で共有していく。 ②授業と生活のきまり、社会の一員としてのマナーについて全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。 ③週ごとに生活目標を設定し、月曜日の朝の放送で放送委員が周知し、帰りの会等で毎日振り返りをする事で望ましい生活習慣への意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 93.3% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 91.3% 地域住民の肯定的回答 100.0% ・「横東小スタンダード」を基本とし、共通理解を図りながら指導することができた。 ・児童指導委員会を開催することにより、児童の実態把握やきまりの確認を適宜行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①「横東小スタンダード」を活用し、授業や生活のきまりを具体的に理解させることにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ②引き続き、定期的に児童指導委員会を開催し、児童の実態から課題を共有するようにする。「横東小スタンダード」が学校生活に浸透するよう、指導のポイントなどの細かい部分を工夫改善し職員間で共有していく。 ③授業と生活のきまり、社会の一員としてのマナーについて全教職員が同一歩調で真剣に指導に当たるとともに、教師も率先垂範する。 ④週ごとに生活目標を設定し、月曜日の朝の放送で放送委員が周知し、帰りの会等で毎日振り返りをする事で望ましい生活習慣への意識を高める。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B3 児童は、授業や集団活動の開始時刻をきちんと守れている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業や集団活動の開始時刻を守っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○①ノーチャイムで日課を運営することにより、児童が時計を見て行動できるようにする。清掃開始時刻については、曲を流して知らせ、守れるようにする。</p> <p>②児童の生活実態に応じて、随時、週の生活目標や学年・クラスの行動目標に設定するとともに、高学年児童が時間を守ることを率先垂範できるよう指導していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 教職員の肯定的回答 97.5% 保護者の肯定的回答 82.5%</p> <p>・ノーチャイムが定着しており、低学年児童も高学年児童をお手本として、時間を守ることができている。</p> <p>【次年度の方針】 ①ノーチャイムで日課を運営することにより、児童が時計を見て行動できるようにする。清掃開始時刻については、曲を流して知らせ、守れるようにする。 ②児童の生活実態に応じて、随時、週の生活目標や学年・クラスの行動目標に設定するとともに、高学年児童が時間を守ることを率先垂範できるよう指導していく。</p>
	<p>B4 漢字の読み書きや計算力の定着を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、学習した漢字を正しく読み書きしたり、基本的な計算を正しく計算したりできる。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①基礎基本の定着を図るための指導法の研究をする。さらに、「計算オリンピック」「漢字オリンピック」の出題範囲を明確に示したうえで練習期間を設けることや、個人の達成目標をもたせることで、学習意欲を高めるとともに、定着を図る。</p> <p>②少人数指導や習熟度・TT学習などの体制による授業を展開し、学力の向上を図る。</p> <p>③「家庭学習の手引き」を基に低学年から家庭学習の習慣化の重要性を個人懇談の場や学年だより等で保護者に伝えたり、1人1台端末を活用したりして、学年の発達段階に応じた家庭学習を習慣化させる。</p> <p>④朝の学習や家庭学習において、端末を積極的に活用していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 87.7% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 86.0%</p> <p>・多くの児童が漢字計算オリンピックに意欲的に取り組んでいた。 ・家庭学習の手引きを活用した指導の徹底や保護者への周知により、家庭学習の習慣化が図られてきた。</p> <p>【次年度の方針】 ①基礎基本の定着を図るための指導法の研究をする。さらに、「計算オリンピック」「漢字オリンピック」の出題範囲を明確に示したうえで練習期間を設けることや、個人の達成目標をもたせることで、学習意欲を高めるとともに、定着を図る。 ②少人数指導や習熟度・TT学習などの体制による授業を展開し、学力の向上を図る。 ③「家庭学習の手引き」を基に低学年から家庭学習の習慣化の重要性を個人懇談の場や学年だより等で保護者に伝え、学年の発達段階に応じた家庭学習を習慣化させる。 ④朝の学習や家庭学習において、ドリルや端末を活用していく。</p>

<p>B5 児童は読書活動を楽しんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、読書をするのが楽しい。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①読み聞かせボランティアや図書委員会の児童による取組、図書館司書の授業参画、図書館の環境整備、読書センターとしての機能の充実を図る。 ②朝の読書や図書館の利用指導の充実、読書貯金通帳の効果的な利用、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活性化を図る。 ③読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 ④図書だよりや学年だより等を通して読書の必要性やお薦めの本などについて知らせ、特に家庭での読書（家読）の啓発に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 86.1% 教職員の肯定的回答 97.5% 保護者の肯定的回答 70.0% ・読み聞かせや朝の読書、図書館の利用指導の充実、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活動により、児童は読書を楽しむことができた</p> <p>【次年度の方針】 ①読み聞かせボランティアや図書委員会の児童による取組、図書館司書の授業参画、図書館の環境整備、読書センターとしての機能の充実を図る。 ②朝の読書や図書館の利用指導の充実、読書貯金通帳の効果的な利用、図書室の本を利用した学級文庫作りの工夫、図書委員会の活性化を図る。 ③読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 ④図書だよりや学年だより等を通して読書の必要性やお薦めの本などについて知らせ、特に家庭での読書（家読）の啓発に努める。</p>
<p>B6 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上 「自分の子どもは、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が各教科や生活の中で、時と場に応じた言葉づかいを適宜指導し、強化を図れるようにする。 ②学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域の方にも正しい言葉づかいについての指導の協力を求めるとともに、大人が率先垂範するよう呼びかける。 ③校内に正しい言葉遣いを啓発する環境整備を行い、意欲喚起を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 81.6% ・授業中や休み時間など、その都度指導してきているので、時と場に応じた言葉遣いができている児童が多い。</p> <p>【次年度の方針】 ①児童指導の重点指導項目として、学年経営案・学級経営案の中に位置付け、教職員が各教科や生活の中で、時と場に応じた言葉づかいを適宜指導し、強化を図れるようにする。 ②学年だより、学校だより、地域協議会だより等を通して保護者や地域の方にも正しい言葉づかいについての指導の協力を求めるとともに、大人が率先垂範するよう呼びかける。 ③校内で正しい言葉遣いを啓発する活動を行い、意欲喚起を図る。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体アンケートの結果、全26の質問項目中24項目で数値指標を超え、市全体平均よりも5ポイント以上、昨年度よりも5ポイント以上数値指標を上回った項目が多数あった。

今年度5月に新型コロナウイルス感染症が法律上「2類相当」から「5類」に引き下げられることに伴い、学校保健安全法施行規則が改正され、昨年度よりも様々な行事や学習活動において、内容や実施方法を工夫改善しながら実践することができた。また、自由記述欄からは、児童の様子や本校の取組に対して肯定的なご意見や今後に向けての改善案など、多くの回答をいただくことができた。各種便りや学校のホームページ、メール配信等の内容から、厳正に評価していただいた結果であると考えている。

【学校運営】

○A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」では、児童の肯定的回答割合が97.3%だった。また、保護者の肯定的回答は89.2%と市全体平均よりも5.2ポイント上回った。A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」は教職員の肯定的回答割合が100%だった。A18「学校

は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」も市全体平均より数ポイント上回っている。校内において、学習指導上の課題の解決を目指した研究や授業の質を高めるための研修の充実を図ったり、地域協議会を中心とする各種ボランティアや外部講師等の方々の協力を得て、教育活動の充実を目指してきた成果と考える。

・A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、92.5%と市全体よりも9.9ポイント上回った。教職員がICTを有効的に活用し、業務の明確化や適正化を意識して実践してきた成果と考える。

・A17「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」については、保護者の肯定的回答割合が85.1%昨年度よりも7.2ポイント上回った。今後も、挨拶運動や乗り入れ授業の取組など、各種便りやHPなどを活用し、積極的に発信していきたい。

【学習指導】

○A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」は、児童・教職員・保護者とも市全体平均を大きく上回っている。研究主題の副題～主体的・対話的で深い学びを実現するICTの効果的な活用～を意識し、指導内容を工夫しながら一人一人へのきめ細やかな指導を継続してきた成果と考えられる。

・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」の児童の肯定的回答割合は市全体よりも4.1ポイント上回り、A9「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」の児童・教職員の肯定的回答は市全体よりも大きく上回っている。今後も、ALTや専科教員を中心に指導力の向上を図ったり、節水やアルミ缶回収、防災に関する学習や人権に関わる諸問題の解決などが持続可能な社会に結び付いていることを認識させたりし、指導の工夫を行っていききたい。

・B5「児童は、読書活動を楽しんでいる。」では、児童の肯定的回答割合が86.1%とわずかに数値指標を上回ったが、保護者の肯定的割合が70.0%にとどまった。読書の時間や読み聞かせの時間などを通して児童の読書意欲を喚起したり、図書日よりや学年日より等を通して読書の必要性やお薦めの本などについて知らせ、家庭での読書の啓発に努めたりしていきたい。

【児童指導】

・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、全体的に肯定的回答割合が高い。特に保護者は、数値指標に届かなかったものの昨年度より6.9ポイント、市全体平均よりも8.2ポイント上回っている。毎月行っている「学校生活アンケート」や定期的に行っている教育相談の機会を中心に児童の悩みや心配事をいち早くキャッチし、教職員が寄り添ってきたためと考える。今後も学校全体で取り組んでいるいじめ対策に関する取組について、各種便りやHPを活用し、周知していきたい。

・A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」では、数値指標を大きく上回った。縦割り班活動による異学年交流の推進や日頃からのきめ細やかな学級経営による成果が上がっていると考えられる。

○B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」では、児童・保護者・教職員ともに数値目標を大きく上回っている。特に教職員については、市全体平均よりも5.1ポイント高くなっている。児童の自由記述欄にも「元気で大きな挨拶ができる」「挨拶が本校の自慢」など多くの子が書いており、伝統的に受け継がれてきているという意識の高まりが見られた。一方で、週明けなど挨拶に元気がないと感じられる場面も見られるので、引き続き指導を継続していきたい。

○B3「児童は、きちんと時間を守って生活している」については、児童・教職員・保護者とも数値指標を上回った。ノーチャイムの学校生活の中で、高学年児童が低学年児童に手本を示しながら声掛けをし、時間を守って行動することができている。今後も、児童の頑張りを褒め自信をもたせていきたい。

・A10「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」については、数値指標は上回っているものの、市全体平均より低くなっている。引き続きローテーション道徳や交換授業などの際に、児童の様子や頑張りを複数の目で見ながら指導に生かしていきたい。

【保健安全】

○A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」では、数値目標を大きく上回るとともに市全体平均よりも高くなっている。安全面に関しては、今年度集団下校を週1回にしたり、実地的な避難訓練を行ったりと児童の意識向上を図ってきた成果であると考えられる。健康面については、サーキットトレーニングや縄跳び、持久走等を継続的に取り入れ、運動量を確保し児童の体力向上を図ったり、給食指導を通して、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図ったりしてきたことにより、学校の取組に支援や協力が得られている結果と考える。

・A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」については、保護者・地域住民とも数値指標を上回っているが、自由記述において、施設面の点検や修繕についてご意見をいただいた。今後も市教委の支援の下、故障等の速やかな把握と修理・修繕等とともに、さらに衛生面を強化し、安全安心に利用できるよう努めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・アンケート結果を見ると、学校運営全般にわたって評価が高い。肯定的回答の割合が市全体平均よりも高く、昨年度よりも高くなっている項目が多く、教職員が熱心に指導している成果が出ていると思われる。引き続き力を注いでいきたい。
- ・「挨拶」に関する内容については、児童・教職員・保護者・地域住民とも肯定的回答の割合が高いと思われる。来校した際にも元気に挨拶をする姿が見られている。子供たちの挨拶が地域にも広まるように協力していく。
- ・肯定的回答割合が80%に満たない「宇都宮の良さを知っている。」については、児童の意識が高まるような指導が必要である。今後も3年総合「宇都宮のじまんを見つけよう」、5年総合「宇都宮の自然と交通」、6年総合「宇都宮の伝統文化」などの学習において、児童の意識が高められるように工夫・改善していただきたい。
- ・通学帽については、ジェンダーに配慮するとともに安全面への配慮も大切にしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全般的に評価が高く、教職員が熱心に学習指導や児童指導、保健安全指導に取り組んでいることを評価していただいたと考える。今後も、児童が安心・安全に学校に通いながら生き生きと学習や活動に取り組むことができる学校づくりに励むとともに、学校の児童の様子や家庭・地域との連携についての取組について積極的に発信し、信頼される学校づくりに努めていきたい。

【学校運営】

- 家庭・地域・企業等との連携協力については、これまで積み重ねてきた信頼関係のもと、地域協議会を中心とする各種ボランティアの方々の協力をいただいたり、外部講師の方に出前授業を行ったりしていただきながら、積極的に取り組んでいきたい。

【学習指導】

- 分かる授業やきめ細やかな学習指導については、「宇都宮モデル」を意識した授業づくりや主体的な学びにつながるICTの効果的な活用、教員の専門性を生かした教科担任制などを実施していく。
- ・英語を使つてのコミュニケーション学習では、教職員が指導力の向上を図ってきた成果が表れ、肯定的回答の割合が高まった。引き続き、児童が興味関心を高められるような外国語の教材を工夫していく。また、持続可能な社会についての学習では、節水の呼び掛けやアルミ缶回収など、児童を主体とした活動を通して意識の向上を図るとともに、防災に関する学習や人権にかかわる諸問題の解決などが持続可能な社会に結びついていることを認識できるような指導の工夫を行うようにする。
- ・朝の学習の時間のさらなる充実を図り、基礎基本の定着をしていくとともに、家庭学習の習慣化を図れるように、「家庭学習の手引き」の配付や学級懇談会や各種便り等を活用しながら家庭と連携していきたい。

【児童指導】

- ・「横東スタンダード」による望ましい生活習慣の形成や「横東小キラリ賞」等を活用した自己肯定感の醸成により、豊かな心を育む教育活動を推進していく。
- 友達や異学年児童との様々な関りを通して、互いに認め合い、助け合い、励まし合える豊かな人間関係を築くことができるような教育活動を推進していく。
- ・いじめ対策への取組については、道徳の授業や学級活動の話し合いを中心に、各教科指導において人権に関する内容を繰り返し指導するとともに、「いじめゼロ集会」「いじめゼロ標語」などの学校の取組を学校のホームページや各種たよりで家庭や地域にも知らせ、理解と協力を得ながら進めていきたい。

【保健安全】

- 「横東サーキット」の活用や水泳・縄跳び等の各種検定、外遊びの推奨などにより、主体的に健康な体づくりに取り組む力の醸成を図っていく。
- ・交通安全教室や避難訓練の実施、集団下校の際の指導の場を生かして、自ら危険を予測して回避できる力を高める教育活動を推進していく。
- ・発育測定や歯の健康教室、養護教諭による授業参画などにより、自分自身の健康や成長への関心を高める取組を推進し、意識向上を図っていく。